香南市広報「こうなん」平成十九年八月一日発行
編集・香南市広報編集委員会　発行・香南市役所
〒781―5292 高知県香南市野市町西野二七〇六 TEL（〇八八七）五六―〇五一一

やりゆうてえ⑮

江戸時代から、手結の地域の人たちによって踊り継がれてきた手結盆踊り。土佐藩に庶民の祭りを禁止された時代も、手結の港湾工事で亡くなった人々の霊を慰めるために踊り、うたい続けてきました。以来、毎年8月15日のうら盆の夜に踊られるようになりました。今回は、その伝統を伝え続けている人たちを紹介します。

手結盆踊り保存会

子どもの頃聞いた「唄い」の人の声は、天の声のようじゃった

夜須町で守ってきた伝統を香南市へと受け継いで

手結盆踊りは、昔から地域の人たちによって、子どもの頃から当たり前のように踊られ、大人から子どもへと伝えられてきました。祭りの当日やお盆の頃に限らず宴席でも踊られたりと、生活の中でも切り離せすことができないものでした。

若者の力

この伝統の踊りに深くかかわっていたのが旧夜須町青年団です。団員は盆踊りに必ず参加し、民謡の全国大会に参加するなど、伝承活動をしてきた歴史と実績があります。

会長の丸岡さんもその一人。現在では、保存会の中心となり、保存と伝承を目的に後継者の育成などに励んでいます。

踊りは、「こっぱ」・「くろす」・「見合い」・「花取り」から成っていて、特に「花取り」では、男女が向き合って男性は刀を持ち、女性が「ざい」（紅白の紙テープ）を持って舞台の上で踊ります。昔は、ここで、カップルが誕生することもあったとか。

おはやし、太鼓、くどき、ひょうし木は欠かせない

踊りに欠かせないのが「唄い」。この「唄い」は難しく、なかなか簡単にできるというものではありません。しかし「自分たちの声で盆踊りは始まる」という大事な役割に、自然と自信が芽生え、唄うことが好きになってくるそうです。やはり、「好き」であることが、一番の力となるのです。

手結盆踊り保存会「踊り部」野島昌子さん

今の子どもたちに伝えたい

今は、若者の結束力が弱くなり、子どもの数も減ってしまいました。

だからこそ、人を慰めるために踊ってきた「心の踊り」を若い人たちに伝えていかなければと、がんばっています。

今年は、地元の中学生が修学旅行で、市の姉妹都市沖縄県八重瀬町を訪問し、「手結盆踊り」を披露してきました。すべてを生徒たちの手でこなし、立派なものだったようです。

手結盆踊り保存会会長　丸岡克典さん

編集後記

▼夏、真っ盛り！まちは、イベントがめじろ押し。体と心にしっかり栄養補給して、元気な夏をお過ごしください。広報もしっかり！頑張ります～涙。（井）

▼絵金祭りで、知り合いのプロのカメラマンに、ろうそくに浮かび上がるびょうぶ絵と、それを見る観光客の撮り方を教えてもらい、得意げにパシャパシャと。翌朝、写真をチェックするとピンぼけ。なんで～涙。（m）

▼ＡＬＴとＣＩＲの国際交流イベントはお弁当持参で参加。着いた直後にデザートがぼろぼろと落下し、３秒ルール。鮭わかめのおにぎりは食べた人に「味が濃い」と言われました～涙。（Ｎ）

おわびと訂正

▼《７月号》スポーツトピックスの「バレーボール」高知商業女子バレー部の濱田はるかさんのお名前を表記し間違いました。おわびして訂正いたします。

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp